

## J R 芸備線の状況等に関するヒアリングの結果について

### 1 要旨

8月2日（水）に岡山市内で開催された標題の件について、結果を報告する。

### 2 ヒアリングの内容

#### （1）J R 西日本からの説明

○芸備線区間別収支の内訳（2019～2021）

コロナ禍の影響を説明

○芸備線の災害発生状況等

平成 30 年 7 月豪雨被害状況と近年多発している大雨等による被害状況について説明

#### （2）本県の主張

改めて、本県の考え方を主張し、J R 西日本に説明を求めた。

○ J R は、国鉄改革時に、不採算路線を含めて事業全体で採算が確保されるように事業用固定資産の承継などが行われた経緯がある。

○ 今後、持続可能な地域の公共交通を議論していくに当たって、「J R がそのまま運行することが最も持続可能性が高いのではないのか」、上下分離やバス転換には地元負担という課題がある。

○ 地域住民が十分な説明を受けた上で、必要な議論ができるよう、その前提となる全路線の収支等と内部補助に関する説明を求めている。

J R 西日本からは、これまでと同様、次のとおり、回答があった。

○ 鉄道特性が発揮できていないことが論点であり、全路線収支や内部補助の考え方ではなく、地域の公共交通の利便性と持続性について、地域の皆様と議論したい

○ 芸備線の議論に必要なデータは、これまで（第 1 回、第 2 回）のヒアリングで示してきたと認識している

#### （3）その他

今回のヒアリングの最後に、J R 西日本から、「10/1 に改正法が施行され次第、速やかに再構築協議会の設置を国へ要請したい」と発言があった。

### 3 今後の対応

引き続き、本県主張の理解が得られるよう、国と J R 西日本に働きかけるとともに、仮に、国から再構築協議会の参加の要請があった場合には、協議会の趣旨や、協議会で検討すべき内容などを踏まえ、改めて沿線市と協議し、対応を検討することとする。